Case 03

就職以外も視野に 多業も選択肢のひとつ。

自動車ディーラーのエンジニアから青森市浪岡地区の地域おこし協力隊へ。コロナ禍での活動から創業を決意し、現在も青森で活動する黒竹さんを追った。

Iターン

千葉県→青森市

黒竹 健司さん
Little Gadget Lab
（情報通信）
2022年2月創業

母のふるさと青森へ

青森市浪岡地区の地域おこし協力隊として2019年に移住した黒竹健司さん。母親が青森市出身で、母親から郷里へ移住したいという話が持ち上がり、一足先に黒竹さんが青森市に移り住んだ。移住前は千葉の大手自動車ディーラーでエンジニアをしていたが、田舎暮らしには憧れがあり、転職を考えていたという。母親の話を受けて東京の移住相談会に通っていたが、条件に合う求人が見つからず、協力隊の募集が道を開いてくれた。協力隊の活動内容は地域PR。今までの仕事とは違うジャンルだったが、黒竹さんは挑戦しようと移住を決めた。

創業を意識しはじめる

協力隊として活動を続ける中で、市役所の担当課長からリノベーションスクールを勧められる。リノベーションスクールとはビジネスプランを持ち寄り、さまざまな業種の参加者たちとアイデアをブラッシュアップしていく学びの場。「なんの気なしに参加したものの、まじめに事業計画を立てることになってしまった」と笑う黒竹さん。移住1年目で創業に興味を持ち、青森商工会議所が主催するスタートアップセミナーにも顔を出すようになった。

「自分で創業して生きる彼らが輝いて見えた」

創業するつもりなどなかったが、講師としてやってくる現役創業者たちの姿勢に触れ、考えは変わっていった。

さらに移住2年目に発生した新型コロナウイルスの影響で協力隊の活動ができなくなったことが決定づけた。移住希望者に青森の魅力を直接伝えることができなくなった事態に、黒竹さんは本格的に映像制作に取り組むことを考えた。

市役所の常駐スペースにデスクトップパソコンを設置して映像を編集・発信。ドローン撮影ができると知った他部署から、桜を撮ってほしいなどの依頼がくることもあった。

青森で創業し再スタート

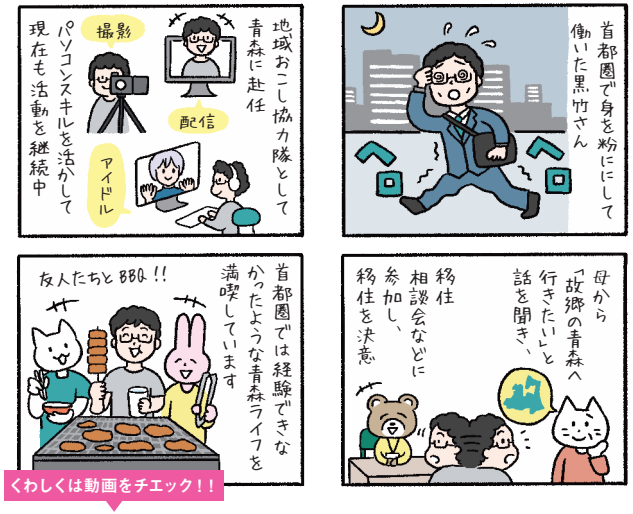
2022年2月、黒竹さんは協力隊の任期満了直前に個人事業主となった。青森市広報番組の配信動画編集やイベントやドローン撮影といった映像の仕事のほか、一般企業からのデジタルを活用する相談が徐々に増えている。

2022年4月からは青森市移住コーディネーターに任命され、移住体験者のアテンドを行いながらラジオやケーブルテレビで移住の魅力を伝えるなど、黒竹さんのできることが仕事となった。

「青森は、新しく生まれた業種でのライバルが首都圏に比べて少ない。開拓する楽しさがあり、自分がすでに持っているもので創業できる場合もある。大企業へ食い込むのは難しくとも、個人事業主で複業という形はとりやすいのではないか」

現在は地域のイベントサポートやコミュニティーの活性化に携わる仕事の依頼も舞い込むようになった黒竹さん。活動の幅は広がっているようだ。

黒竹さんの青森ライフ



くわしくは動画をチェック！！

黒竹さんの住居兼作業場。空き家を格安で借りることができたが、後になって遠い親戚の家だったことが分かったという

黒竹さんの創業まで

- 2018年7月▶ 東京の移住相談会へ
- 2019年4月▶ 協力隊として青森市浪岡へ
- 2019年11月▶ スタートアップに興味
- 2022年2月▶ Little Gadget Lab 創業
- 2022年2月▶ 移住コーディネーター活動開始

支援機関担当からの一言

地域おこし協力隊として事前に地域との関係性を作り、地域のビジネス事情を把握できたことで、黒竹さんはスムーズに創業することができました。移住前から現地ニーズを調べること。ポイントを押さえたお手本のような移住創業です。

Information
Little Gadget Lab
littlegadget.lab96@gmail.com